

関東大震災 90 周年・慰霊と学習のつどい

：震災直後の炊き出し風景（富士見橋たもと）

安房北条駅まで鉄道（房総西線）が開通し、新しい時代に向かってまちは変わろうとしていた矢先、1923（大正 12）年 9 月 1 日午前 11 時 58 分、未曾有の関東大震災（M7.9）が起きました。安房郡内の犠牲者は 1,206 人となり、なかでも館山湾に面した館山町・北条町・那古町・船形町では、全半壊や火災焼失した家屋が 98% にのぼりました。

安房郡震災復興會（小原金治会長）が組織され、道路・河川・海岸・港湾などの土木や建築物の復興とともに、農林水産商業などあらゆる産業の復興が急がれました。一方、震災は地形の変化をもたらしました。高の島が干潟で陸続きとなって歩いて渡れるようになり、鏡が浦の海岸線も延びて遠浅の海となりました。海岸沿いの地域では鉱泉が噴出したところもあり、海水浴場としての魅力も増し、「復興活動に努力せられつつある都人士を迎えて慰安を与ふる」という観光事業の推進が大きな役割を果たしたといえます。

館山駅西口近くの中村公園隣りには、慰霊のために建立されたという観音堂があります。大震災から 90 年という節目にあたり、あわせて東日本大震災の犠牲者を供養し復興を祈念するとともに、館山での震災はどうだったのを学ぶ機会にしたいと思います。



日時：2013年9月1日（日）14時～ 資料代：200円

会場：震災観音堂（館山市北条 2549-4、中村公園となり、館山駅西口徒歩 5 分）

北条海岸西口会館（館山市北条 2645-1、TEL0470-23-0652）

主催：NPO法人安房文化遺産フォーラム 090-6479-3498



左上：震災観音堂（慈恩院の塔頭）
右上：高ノ島の震災記念碑（一部）
左下：彫刻家・長沼守敬作の供養レリーフ

「あわやとてたつまなきまにきゆるみは おなじはちす(蓮)の花のうてな(台)に」

…万里小路通房によるご詠歌…